

# 献体とは

子供たちの健やかな日々と  
明日の医療の発展を願って  
より良い医師・歯科医師を育てるために



篤志解剖全国連合会  
(財)日本篤志献体協会

2012 改訂版

● 献体とは、医学・歯学の大学における解剖学の教育・研究に役立たせるため、自分の遺体を無条件・無報酬で提供することをいいます。

「自分の死後、遺体を医学・歯学の教育と研究のために役立てたい」とこころざした人が、生前から献体したい大学またはこれに関連した団体に名前を登録しておき(7ページ以後参照)、亡くなられた時、遺族あるいは関係者がその遺志にしたがって遺体を大学に提供することによって、はじめて献体が実行されることになります。

## 解剖の種類

- 解剖には、大きく分けて次の3種類があります。
  - ① 正常解剖：人体の構造をしらべるための解剖
  - ② 病理解剖：病変を調べるための解剖  
死後、すぐに行う
  - ③ 法医解剖(または司法・行政解剖)：変死体の死因を調べるための解剖

● 献体に直接関係があるのは上記 ① 正常解剖で、医学教育・歯学教育の基礎と言われております。医学・歯学教育の初期に履修する「解剖学実習」がこれに当たります。亡くなった直後に病院で行う病理解剖とは違い、正常解剖は、医学・歯学系大学の解剖学教室で行われます。

良い医師・歯科医師を育てるためには、全身の構造を学ぶ「解剖学」の教育を充実させることが絶対に必要なことなのです。

## 献体の意義

### より良い医師・歯科医師の育成

● 今日ほど「医の倫理」が強調され、良医の育成が強く要望されているときはありません。医学生・歯学生は、「解剖学実習で、自分の身体を使って十分に勉強して良い医師・歯科医師になってください。」という願いをこめて献体されたご遺体によって学習することにより、人体の解剖学の知識を習得すると同時に、献体に対する感謝の気持ちと、その期待に応える自覚と責任感を涵養します。

献体の最大の意義は、みずからの遺体を提供することによって医学の教育・発展に参加し、次の世代の人達に役立つために、学識・人格・技量ともに優れた医師・歯科医師を養成するための礎となることがあります。医学教育は、医学・歯学の学生のみに必要なではありません。医師・歯科医師はじめ看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・歯科衛生士・歯科技工士などのコミュニケーションと呼ばれるチーム医療を支える医療人を育てるためにも、解剖学実習が求められています。また医師や歯科医師がより優れた医療を提供するためにも献体を活用した解剖学の教育・研究が求められています。日本の医療水準を更に高めるために献体者のご理解を願う運動が始まっております。

## 献体運動の変遷

● 「解剖学実習」が、医学教育・歯学教育の中で最も大切な基礎となる課程と言われながら、この実習に必要なご遺体が不足し、解剖学教育に大きな支障をきたした時代がありました。こうした医学教育の危機ともいえる状況を憂えた方々が、少しでもお役に立つことができるならば、と献体を思い立ち、大学に申し出られたことがきっかけとなって献体運動が始まりました。しかし、献体運動はたんに教育用ご遺体の不足解消に役立つというだけではなく、医の倫理教育の面でも重要な意味を持っています。こうして、献体運動はより多くの人々に支えられ、献体の輪がしだいに拡がり、現在の発展を見るに至りました。

現在では日本の医療の向上のために、医学生・歯学生の教育や研究以外にも献体を使わせていただきたいという要望が出てきました。その1つがコメディカル教育で、もう1つは外科系23学会から要望の出たサージカルトレーニングです。安全で、より良い手術法の開発と、手術手技のトレーニングに献体を使わせていただきたいという要望です。これについては、実施する場所、指導者などの基準ができていますが、最も重要なことは献体登録される方々のご理解とご協力です。



## 献体登録の現況

- 現在、わが国には献体篤志家団体が61団体あり、北は北海道から南は沖縄まで、献体登録者の総数は253,636名を越え、そのうちすでに献体された方は108,377名に達しています(平成24年3月31日現在)。これをみましてもわが国の医学・歯学の大学で行われた解剖学実習とその研究への貢献は大なるものがありました。
- 最近は登録者数も増加の一途をたどり、実習をすべて献体されたご遺体で行える大学が増えておりますが、全国的にみますと習慣の違いなどで登録者数の少ない大学もあり、一方、登録者数の多い大学では、登録を一時見合わせているところが多くなっております。このように最近は、大学ごとの登録者数のアンバランスが目立つようになってまいりました。
- 昭和54年の秋に、日本学術会議は内閣総理大臣にあて、「**献体登録に関する法制化の促進について**」という勧告を行いました。法制化の実現は医学教育における献体の意義を国が公けに認めることになり、重要な意味を持ちます。この勧告をきっかけとして、国会でも献体に関する論議が始まり、昭和57年度からは**献体者に対する文部大臣からの感謝状贈呈**が行われるようになり、また、「**医学および歯学教育のための献体に関する法律**」が、昭和58年5月に国会で可決、成立し、同年11月25日に施行されました。

献体のお申込・お問い合わせは各大学もしくは献体の会にお寄せ下さい

### 「献体とは」

● 平成25年1月20日 第21版発行  
● 発行

財団法人 日本篤志献体協会  
〒160-0023 新宿区西新宿3-3-23  
ファミール西新宿4階404号室  
電話 (03)-3345-8498  
FAX (03)-3349-1244  
E-mail: info@kentai.or.jp  
URL <http://www.kentai.or.jp>



#### 編集責任

篤志解剖全国連合会事務局  
〒160-0023 新宿区西新宿3-3-23  
ファミール西新宿4階404号室  
電話 (03)-3345-8498  
FAX (03)-3349-1244  
E-mail: info@kentai.or.jp  
URL <http://www.kentai.or.jp>

# 献体登録をするには

## どこに申込むのか

- 献体篤志家団体(献体の会)または医科および歯科の大学へ申し込むのです。申込み先は大学病院ではありません。

あなたのお住まいの都道府県にある医科大学(大学医学部)か歯科大学(大学歯学部)、または、献体の会にお問い合わせ下さい。団体や大学によって多少手続きの形式が違います。

## 献体登録の申込書

- 献体の会または医科および歯科の大学に請求すれば申込書を送ってもらえます。電話で請求されても結構です。

この申込書に必要なことを記入し、捺印したうえ、献体の会あるいは大学へ郵送して下さい。肉親者の同意の印をもらうことが大変な手間となることもありますしが、8ページに書いた通り重要なことなので、是非とも同意を得ておいて下さい。

- 尚、「同意の印」は、献体の会または大学から届く申込み用紙を用い、その署名欄に捺印をして下さい。

## 肉親の同意

- 献体登録には肉親者の同意が必要!!

生前、献体登録をしておられても、死後、実際にその意志を実行できるのは、ご遺族(肉親の方がた)であって、申込み者本人ではありません。したがって、ご遺族の中に一人でも反対がありますと献体は実行されず、その遺志が生かされないことにもなりかねません。

そのため、献体登録をする時にあらかじめ肉親の方々の同意を得ておくことが大切です。また、登録後も、できるだけ多くの身近な人達に理解しておいてもらうよう、その旨を伝えておくことが必要です。

## 肉親の範囲

- 登録にあたって、同意を得ておいていただく肉親は、配偶者および、同居別居を問わず親、子、兄弟姉妹などを指します。ことに親族中で発言力の強い方の同意を得ておくことは特に必要です。

- 肉親の範囲については、献体の会または大学にご確認下さい。

- 身寄りのない方の場合も含めて、くわしいことは全て献体の会または大学にご相談下さい。

## 病気や障害、また、手術をした場合にも献体はできるか

- 解剖学実習は、解剖学の教授または准教授の指導のもとに行われますので生前の病気や手術のあとなどがあっても、「正常」なものと比較することによって、良い学習ができることもあります。この点について、なおご心配な方は、具体的に団体または大学とご相談なさるようおすすめします。
- 臓器提供をご希望の場合：臓器提供と献体の両方を希望されたとしても、死後に実行できるのはどちらか一方になります。臓器提供するために臓器を取り出ると、ご遺体の防腐処置ができなくなり、解剖学実習に使用できなくなるためです。ドナーカードなどで臓器提供の意思を表示することは問題ありませんが、臓器提供の意思登録を希望される場合は、献体との同時登録を受ける所と受けない所がありますので、献体の会または大学にご相談下さい。
- 献体登録可能な年齢は各大学により違いがありますが、ご高齢の方が優先される傾向がありますので登録ご希望の大学にお問い合わせ下さい。



## 会員証（献体登録証）

- 入会申込書（献体登録申込書）を提出しますと、会員証（献体登録証）がもらえます。その会員証には、献体先大学名と死亡時の連絡方法などが書かれていますので、大切に保存しておき、家族や身近な方々にもよく知らせておくことが必要です。旅行の時などには、不慮の事故にそなえて、会員証を身につけておくことも大切なことです。但し、遠方に転居なさった場合には最寄りの大学にあらためて登録をお願いする場合がありますが、その大学の事情もありますので事前にお問い合わせ下さい。

## 献体の実行

- 献体登録者（会員）が死亡された時、ご遺族あるいは身近な方は、会員証に書かれた連絡先（献体登録大学）へ、お電話下さい。その際、葬儀の日取り、その他のご遺族側のご予定、ご希望なども含めて、ご遺体の引取りの日時や手順を大学側と相談して下さい。



## 葬儀を済ませてからでよいか

- 通夜・告別式など、通常の葬儀を行うことは、献体するうえで、少しも障害とはなりません。通常、葬儀のあと、ご遺体は出棺して火葬場に向かうことになりますが、献体される場合は、火葬場でなく、大学に運ばれる点が違うだけです。また、献体の場合は、次のページに述べられているような理由で、ご遺骨が戻るまでに時間がかかります。それまでの間、遺髪や遺爪をおまつりになりたい方は、あらかじめ大学にご相談下さい。
- 大学へのご遺体移送費と火葬費は、大学で負担いたします。



## 遺骨返還の時期と方法

- 献体されたのち、ご遺骨がご遺族に返還されるまでの期間は、大学によって差がありますが、普通は1~2年、長い場合は3年以上かかることがあります。これは、次のような理由によるものです。
  - 防腐処理等の解剖準備期間として3~6か月ぐらいが必要です。
  - 実際の解剖学実習期間として通常3~7か月ぐらいを必要とします。
  - 実習は大学ごとに決められた時間割によって行われるために、その年の実習に間に合わない場合には翌年の実習まで保管されることになります。
  - その他、おあずかりしているご遺体の数の状況によって返還までの期間がかわります。

- 解剖学実習終了後、ご遺体は一体ごとに大学側で丁重に火葬し、ご遺骨をご遺族にお返しいたします。なお、いずれの大学でも、献体された方々のために、大学の公式行事として毎年慰霊祭が行われています。